

【補助事業概要の広報資料】

整理番号 27-90
補助事業名 平成27年度 エンジニアリングアプローチを用いた地域産業の活性化の
調査研究 補助事業
補助事業者名 一般財団法人エンジニアリング協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

都市と地域、農林水産業とエンジニアリング産業、及びそれらを融合させたバイオマス技術等が補完し合うことから得られる改善策とその過程で得られた新しいアイデアを事業に結び付けることが本調査研究の主目的である。最終的には関連企業、地方自治体、地域住民等を入れたプロジェクトを立案、省庁、独法等の関係部署に提案、働きかけを行い、地域活性化実現のきっかけとする。

(2) 実施内容 (<http://www.ena.or.jp/lka-subsidy-business/h27>)

二つのワーキンググループを編成し、各々のテーマの調査研究を開始した。

第1WG：バイオマス技術の活用と普及

第2WG：都市部との連携による6次産業化システム

各ワーキンググループのそれぞれの担当分野について調査・検討を行った。

【講演会】

①講演テーマ：「バイオ由来の水素」

②講演テーマ：「バイオリファイナリー開発最新動向と産総研の取り組み」

③講演テーマ：「デンマークの再生可能エネルギー利用に関する政策」

【現地調査】

①調査先：(株)グリーン発電大分 天瀬発電所

目的：木質バイオマス燃料での発電の現状

②調査先：日田市バイオマス資源化センター

目的：生ごみ、家畜糞尿由来メタンガスによる発電の現状調査

③調査先：福岡中部水処理センター

目的：下水汚泥から水素生産の B-DASH プロジェクト調査

④調査先：三重トランスヒートコンテナ

目的：産廃処理熱を蓄熱し、給湯熱源に利用する先駆的事業視察

⑤調査先：富山グリーンフードリサイクル(株)

目的：食品系廃棄物や剪定枝等の処理受託、堆肥化、ガス発生の実状調査

⑥調査先：富山環境整備

目的：ICTによる管理の技術実証の現地調査

⑦調査先：長岡市生ごみバイオガス発電センター

目的：生ごみのメタン発酵とバイオガス発電の長期実証調査



第3回講演会 デンマークの再生可能エネルギー利用に関する政策



(会場入り口の講演表示)



(講演中の田中いずみ講師)

< 調査訪問状況 >

2015/9/3 グリーン発電大分



(燃焼塔と燃料移送コンベア)



(発電燃料フロー図の前で)

2015/9/4 日田市バイオマス資源化センター



(全体配置概念図)



(メタン発酵槽の前で)

2015/9/4 福岡中部水処理センター



(ガス前処理設備と全体システム概念図)



(水素ステーションにて)

2015/10/8 三重中央開発(株)トランスヒートコンテナシステム



(エネルギープラザ、

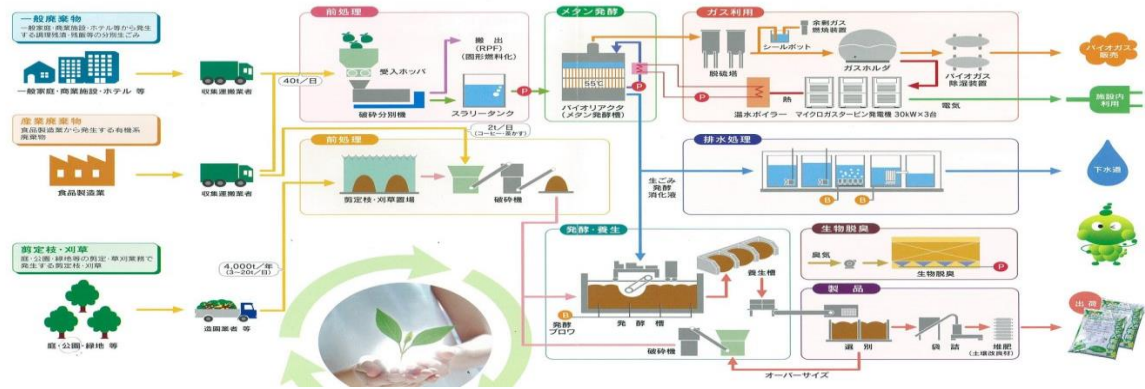


循環型最終処分場



排水濃縮結晶化設備)

2015/10/15 富山グリーンフードリサイクル(株)



全体の概念図

一般廃棄物・産業廃棄物処理施設			
事業の区分・範囲		許可番号	許可有効
一般廃棄物処理業	破砕・選別	26101808	平成29年3月
	メタン発酵処理 堆肥化処理		
産業廃棄物処分業 (中間処理)	破砕・選別	08527101808	平成30年3月
	メタン発酵処理		
	堆肥化処理		
	破砕・選別・分類		
設置場所	富山県富山市松浦町日暮20号		
管理責任者	橋本賢治	連絡先	TEL 076-426-0798 FAX 076-438-8171
設置者名及び住所	富山グリーンフードリサイクル(株) 富山県富山市松浦町日暮20号		

施設の事業の区分と範囲

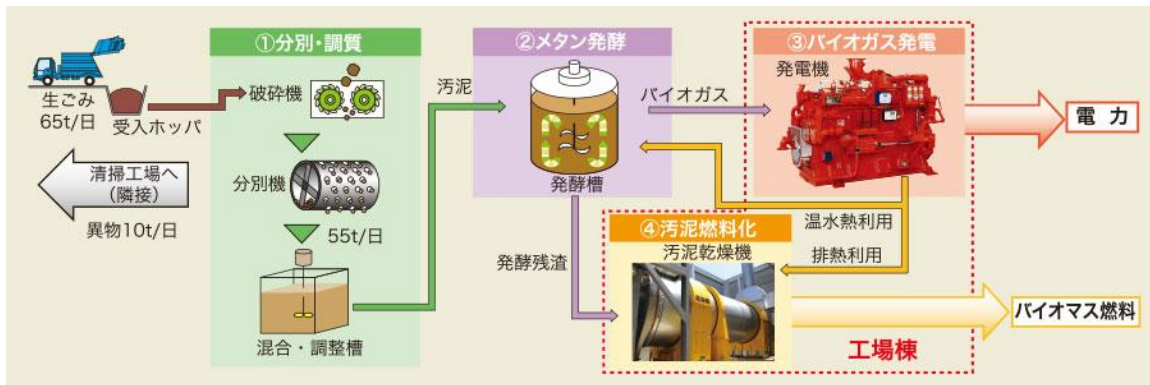


視察メンバー

2015/10/16 長岡市生ごみバイオガス発電センター

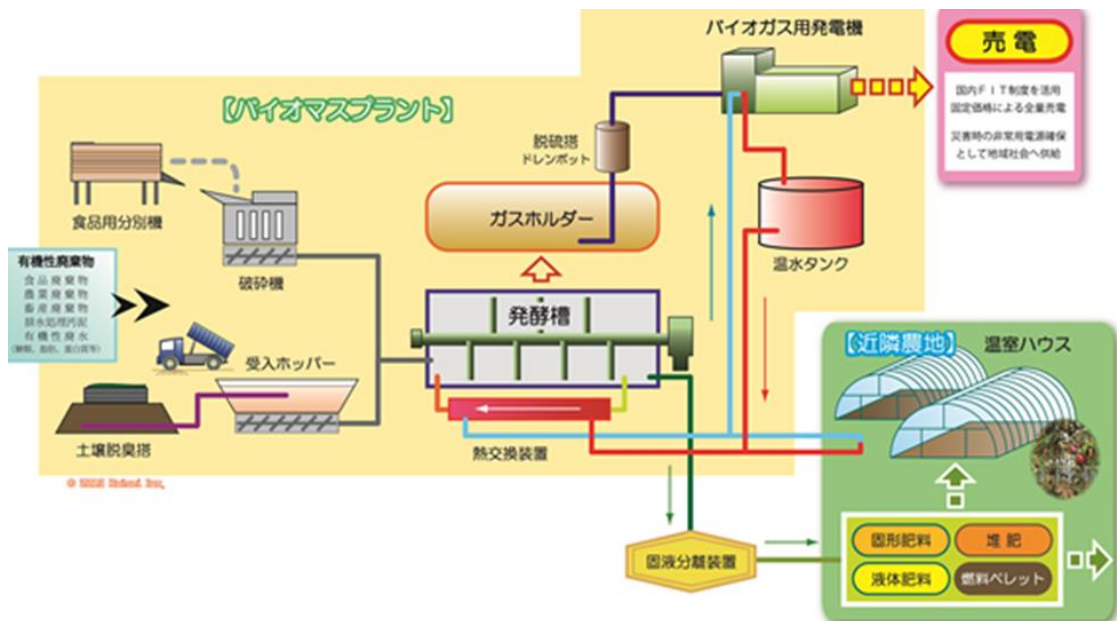


発電センター全景



処理工程の概念図

2015/10/16 開成瀬波エネルギープラント



瀬波バイオマスエネルギープラントシステムフロー



温室内温水配管

視察メンバー

2 予想される事業実施効果

・再生可能エネルギーの中で、バイオマスの利活用は申請／認定は多いものの実際の導入が進んでいないという問題が、FITの見直しを経てもなお改善されていない。そのため、本研究では前年に引き続きこの問題に取り組んだ。特に木質バイオマスや生ごみ・下水汚泥等循環型資源の利活用は、人口減少に悩む地域の産業活性化やコミュニティ機能の回復・増強に直接的に貢献するものであり、今年度はこれらの新規な切り口での調査検討を進めた。また、農林水産業のICT活用等による2次・3次産業との連携、都市部との連携も、政府による「農業情報創生・流通促進戦略」等が推進されてはいても、その進展が十分ではなく、この点についても今年度はさらに現状の問題を深掘りして具体的な課題抽出と対策検討を実施した。

これらの活動成果は、今後事例分析、検討を質・量共に深め一般化した上で、対策が必要な個別事例のケーススタディを行うことや、適用法規および関係省庁・部局の政策との適合性などシステム面での検討も深めることで、今後、具体的なプロジェクトの発展に繋がるものと予想する。また、提示した課題や対策案が個々のテーマとして展開していくことも期待している。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの (http://www. enaa. or. jp/ lka- sub- sidi- y- busi- ness/ h27) 平成27年度エンジニアリングアプローチを用いた地域産業の活性化の調査研究報告書

報告書の表紙と目次

027-100 ENAA 2015-07-A

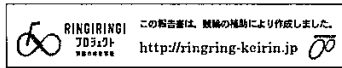
平成27年度

エンジニアリングアプローチを用いた地域産業の活性化の調査研究報告書

平成27年度 エンジニアリングアプローチを用いた 地域産業の活性化の調査研究報告書

平成28年3月

一般財団法人 エンジニアリング協会



目次

第1章 調査研究の経緯と目的	156
1.1 調査研究の経緯	156
1.2 調査研究の目的	157
1.2.1 調査研究の経緯	157
1.2.2 調査研究の目的	157
第2章 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.1 調査研究の経緯	161
2.1.1 調査研究の経緯	161
2.1.2 調査研究の目的	161
2.2 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.2.1 調査研究の経緯	161
2.2.2 調査研究の目的	161
2.3 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.3.1 調査研究の経緯	161
2.3.2 調査研究の目的	161
2.4 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.4.1 調査研究の経緯	161
2.4.2 調査研究の目的	161
第3章 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
3.1 調査研究の経緯	161
3.1.1 調査研究の経緯	161
3.1.2 調査研究の目的	161
3.2 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
3.2.1 調査研究の経緯	161
3.2.2 調査研究の目的	161
3.3 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
3.3.1 調査研究の経緯	161
3.3.2 調査研究の目的	161

第1章 調査研究の経緯と目的	156
1.1 調査研究の経緯	156
1.2 調査研究の目的	157
1.2.1 調査研究の経緯	157
1.2.2 調査研究の目的	157
第2章 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.1 調査研究の経緯	161
2.1.1 調査研究の経緯	161
2.1.2 調査研究の目的	161
2.2 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.2.1 調査研究の経緯	161
2.2.2 調査研究の目的	161
2.3 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.3.1 調査研究の経緯	161
2.3.2 調査研究の目的	161
2.4 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
2.4.1 調査研究の経緯	161
2.4.2 調査研究の目的	161
第3章 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
3.1 調査研究の経緯	161
3.1.1 調査研究の経緯	161
3.1.2 調査研究の目的	161
3.2 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
3.2.1 調査研究の経緯	161
3.2.2 調査研究の目的	161
3.3 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
3.3.1 調査研究の経緯	161
3.3.2 調査研究の目的	161

第4章 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
4.1 調査研究の経緯	161
4.1.1 調査研究の経緯	161
4.1.2 調査研究の目的	161
4.2 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
4.2.1 調査研究の経緯	161
4.2.2 調査研究の目的	161
4.3 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
4.3.1 調査研究の経緯	161
4.3.2 調査研究の目的	161
第5章 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
5.1 調査研究の経緯	161
5.1.1 調査研究の経緯	161
5.1.2 調査研究の目的	161
5.2 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
5.2.1 調査研究の経緯	161
5.2.2 調査研究の目的	161
5.3 調査研究の経緯と目的による地域活性化について	161
5.3.1 調査研究の経緯	161
5.3.2 調査研究の目的	161

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名：一般財団法人エンジニアリング協会

(イッパンザイダンホウジンエンジニアリングキョウカイ)

住 所： 〒105-0001

東京都港区虎ノ門三丁目18-19 虎ノ門マリビル 10階

代 表 者： 役職名 理事長 佐藤 雅之 (サトウマサユキ)

担当部署： 総務部

担当者名： 役職名 部長代理 亀井 秀次 (カメイ ヒデツグ)

電話番号： 03-5405-7201

F A X : 03-5405-8201

E-mail : kamei@enaa.or.jp

U R L : <http://www.enaa.or.jp/>